

一般社団法人日本工業炉協会

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1. 事業概要

(1) 標準化事業

①国際標準化事業において、令和6年度も国際標準化事業について業務を継続し、(一財)日本規格協会と「国際幹事国等業務に関する請負契約」を締結した。

(受託金額) 3,300,000円

受託内容に基づいて、ISO/TC244の幹事国業務を実施した。

令和6年11月20日(水)～22日(金)に大阪でISO/TC244総会及びWG会議を開催した。今回は、11ヶ国より合計43名が参加した。各WG会議終了後に総会が行われた。(参加者) フランス3名、オーストリア1名、ドイツ13名、ルクセンブルグ1名、

日本6名、ベルギー3名、オランダ1名、中国6名、カナダ1名、
スウェーデン1名、イタリア4名、ISO TC161 (日本1名)

ISO TC306 (中国1名)、ISO中央事務局1名、

TC244事務局(日本)2名

内、会場参加者:10ヶ国28名、Web参加者:11ヶ国15名(合計)43名

②国内標準化事業については、JIS B 8415-2「工業用燃焼炉の安全通則 第2部 燃焼及び燃料取扱システム」に水素燃焼に関するリスクアセスメント上の注意すべき事項に関する附属書の追加・改正作業を実施した。本件については、令和4年11月に日本規格協会のJIS原案作成に応募して採択され、令和5年12月に完了し、令和6年6月20日(木)に、JIS B 8415-2の改訂版が発行された。JIS B 8415-2追補改定版の説明会を令和6年8月7日(水)～8日(木)にオンラインで開催した(参加者175名)。

(2) 機関誌「工業加熱」の刊行事業

編集委員会により、当協会の機関誌「工業加熱」を6回/年、奇数月(1、3、5、7、9、11月)に編集し、発刊した。

(3) サーマルテクノロジー2024の開催(広報委員会)

令和6年10月10日(木)～11日(金)の2日間、グランフロント大阪北館コングレコンベンションセンターにて、「サーマルテクノロジー2024 第5回工業炉・関連機器展&シンポジウム」を開催した。121小間の展示を行うとともに、基調講演1件、特別講演3件、製品・技術発表会17件の講演を頂いた。(来場者数) 3,547名

サーマルテクノロジー2024の特徴として、(一社)日本熱処理技術協会及び(一社)金属熱処理工業会のご協力を頂いて、「熱処理相談コーナー」が設けられ、日頃の業務で熱処理技術に関する課題を有する皆様からのご相談・討議が行われた。

さらに、今回は(一財)素形材センター30周年記念行事の一環として、素形材産業に係る団体の産学官連携を強化する目的により、工業団体(17団体)が連携して『素形材月間展示ブース』を初出展した。サーマルテクノロジー2024では「素形材×デザイン」をテーマとして、一般の方にも素形材を広く知って頂くための展示が行われた。

工業炉協会のSDGs推進WGが中心となって、「持続可能な社会を創る工業炉業界」をテーマとして、会員企業から推薦されてメンバーによるSDGsツアーが開催された。

(4) 令和6年度人材育成講座の開催

1) 令和6年度「工業炉専門基礎講座」

令和6年度「工業専門基礎講座」は、総務委員会の企画立案の下、令和6年9月19日(木)～20日(金)に名古屋市のウイंकあいち(座学7講座)及び(株) L I X I L 榎戸工場(工場見学)で開催した。(受講生) 42名

2) 工業炉専門講座

令和6年度「工業炉専門講座」は、総務委員会及び技術企画委員会の共同企画立案により開催された。令和6年度より、従来の「誘導加熱」に加えて新たに「燃焼炉」及び「抵抗加熱炉」を開設し、工業炉専門講座の内容を充実させた。

① 令和6年度第1回専門講座(誘導加熱)

(日時) 令和6年6月27日(木)～28日(金)、(場所) 機械振興会館
(受講生) 25名

② 令和6年第2回度工業炉専門講座(燃焼炉)

(日時) 令和6年12月12日(木)、(場所) 中外炉工業(株) 堺事業所熟技術創造センター、(受講生) 30名

③ 令和6年度第3回工業炉専門講座(抵抗加熱炉)

(日時) 令和7年2月14日(金)、(場所) 名古屋市ウイंकあいち(受講生) 32名

3) 電気に関する基礎講座の開催(総務委員会 誘導加熱WG)

令和5年度に好評であった電気に関する基礎講座を令和6年度も開講した。令和6年度は、日本工業炉協会が主催し、日本エレクトロヒートセンターの協賛を得て、東京電力エネジーパートナー(株) 牛山講師による電気の基礎講座を計3回、オンライン(Web)開催した。

(第1回) 令和6年10月18日(火) (受講生) 44名

(第2回) 令和6年11月28日(火) (受講生) 27名

(第3回) 令和6年12月18日(火) (受講生) 32名

(5) 感謝状贈呈、業務・技術功労者表彰

令和6年5月22日(水)の第36回通常総会終了後に、令和6年度業務・技術功労者表彰式が行われ、業務功労者4名、技術功労者5名の計9名が表彰された。

(6) 「協会だより」の発行

毎月末に「協会だより」を発行した(12回/年)。

(7) 講演会の開催

令和6年10月22日(火)に開催された秋の会員連絡会において、NPO法人 ELP(Earth Literacy Program)代表、京都芸術大学 教授 竹村 眞一氏より、「共創地球学 ～地球と人類の共進化に向けて」に関するご講演を頂いた。

(8) 賀詞交歓会の開催

令和7年1月21日(火)に大手町レベル21東京會館にて、賀詞交歓会を開催した。ご来賓(経済産業省 製造産業局 素形材産業室、素形材団体)を含めて221名の方にご参加頂いた。

(9) 各種統計調査・報告

(一社)日本工業炉協会の会員企業の売上及び受注統計等について、会員及び経済産業省へ報告し、ホームページにて公表した。

(10) 調査研究事業の受託

令和6年度は、以下の2件の事業を受託した。

1) 一般財団法人 日本規格協会

国際幹事国業務に関する請負契約 (受託金額) 3,300,000円

2) 脱炭素産業熱システム技術研究組合(略称: DITS)

「工業炉の脱炭素化に向けた実態調査」受託契約 (受託金額) 2,750,000円

(1 1) 海外の工業炉業界（団体）との交流

令和6年9月13日（金）にドイツ デュッセルドルフで開催されたCECOF総会に高橋事務局長が参加し、意見交換を実施した。IHEA総会は、令和7年3月10日（月）～12日（水）に米国 サウスカロライナ州で開催され、高橋事務局長が参加して意見交換を実施した。

2. 総会、理事会

(1) 総会

第36回通常総会は、令和6年5月22日（水）に大手町レベル2 1 東京會館で開催された。議題として、令和5年度事業報告及び決算、令和6年度事業計画及び収支予算、令和6年度正会員入会金及び正会員、賛助会員会費の賦課徴収方法、役員選任について審議が行われ、原案の通り承認された。

(2) 理事会

- 1) 第126回理事会は、書面決議により、（議題）「令和5年度事業報告及び決算について」以下の方法で開催された。令和6年4月24日（水）～5月7日（火）の期間に当該事項の議決に加わることができる理事全員による同意及び異議を述べることができる監事全員による異議がないことの確認が得られたため、当該決議事項につき、理事会決議が行われた。
- 2) 第127回理事会は、令和6年5月22日（水）に、大手町レベル2 1 東京會館において、第36回通常総会終了後に開催された。以下の議題について審議が行われ、承認された。

（議題）

- ① 会長、副会長、専務理事の選定について
- ② 規程の改定について
- ③ 「工業炉の基礎知識 改訂版」の増刷について
- ④ 「素形材産業の適正取引の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画改訂」について

- 3) 第128回理事会は、令和6年10月22日（火）に大手町レベル2 1 東京會館で開催された。以下の議題について審議が行われ、承認された。

（議題）

- ① 令和6年度上期事業報告について
- ② 令和6年度上期収支決算について
- ③ 新会員の入会について

- 4) 第129回理事会は、令和7年3月14日（金）に機械振興會館で開催された。以下の議題について審議が行われ、承認された。

（議題）

- ① 令和6年度事業報告
- ② 令和6年度収支決算見込み
- ③ 令和7年度事業計画及び収支予算
- ④ 新会員の入会について
- ⑤ 令和7年度正会員入会金及び正会員・賛助会員会費の賦課徴収方法
- ⑥ 令和7年度業務功労者・技術功労者表彰について
- ⑦ 第37回通常総会（5月21日予定）について
- ⑧ 令和7年度役員の確認
- ⑨ その他（今後の予定等）